

甲府地区消防本部管内で着衣着火による火災が発生しています。

「着衣着火の危険性」

着衣着火とは、「調理中にこんろの火が袖口に燃え移る」「仏壇のろうそく等の火が身に着けている衣服に燃え移る」などの火災をいいます。

簡単なミスが大きな被害につながるがありますので、日常生活の中で気を付けて着衣着火を防ぎましょう。



甲府地区管内で令和5年1月1日から同年8月31日まで着衣着火事例がすでに**4件**発生しています。原因としては、こんろを使用中に火が着衣に着火するケースがほとんどです。

総務省消防庁「消防統計(火災統計)」によると、平成27年から令和2年までの6年間に火災により6,944人の方が亡くなっています(放火自殺者等を除く)。そのうち、着衣着火により亡くなった方は572人(約8%)で、そのうち8割以上が65歳以上の高齢者(493人)です。

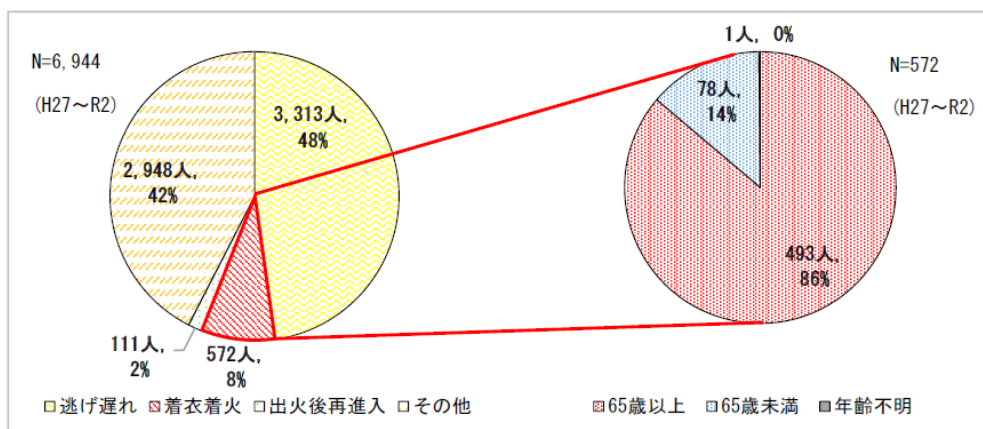


図1 死に至った経過別死者数

図2 着衣着火による死者の年齢別内訳

※令和3年消防白書より抜粋

着衣着火防止の3つのポイント

・燃えやすいものを火気から遠ざける

台所で火気を取り扱う際は、着衣への着火に注意し、燃えやすいトレーやキッチンペーパーなどを火気から遠ざけることが大切です。

・燃えやすい素材の注意

燃えやすい素材の衣服(ポリエステル、ナイロンなど)は、着火した際に急速に燃え広がりますので、防災物品ラベルの付いたエプロンなどを使用しましょう。

・緊急時の対応を知る

もしも、着衣に着火した場合には、脱ぐ・叩く・水をかけるなどをして早期に119番通報を行いましょう。

全国的な着衣着火の事例件数

<https://www.nite.go.jp/data/000142517.pdf>

